





叙

芭蕉翁俳諧の道乃中流やふを  
そる哉おろしてら諸門人の中  
音子ひとり其門小雄よりうれりお  
うらうらの素々味又うら音子哉  
移す我師獨庵のあり又素々  
風と傳へて別々一處此する哉終





あつありとしんせとそ骨髄ふあ  
てと可子あるちせのじとくさ  
世人の早も喝へ耳ふあさるさう  
あしてりの軍のみつろし  
ふなつろんろふ肺やあさく指  
あすまは既ふ十七年もちて玉  
う子追福の集はくろんせそ  
師う句

拾七吟をあきて画圖成をて潤色  
するハ平ら不肖あを助けんとなり  
いくほせをなくてそこのいぬを始れ  
句にあらてあ菜となろく又朋友門生  
うもにか成ありせて人々の佳吟成  
之とあはし巻の後ふ續くそれの号  
成といふうとあきつとてい



先ははくしのかたのくやふ乃

寶曆六年丙子初秋

須臾菴 祇照

田

上

超波師肖像



第一筆画



水月



大内  
の  
朝  
起  
の  
衣  
着



第一景



おりろ  
ものや  
なま  
乃

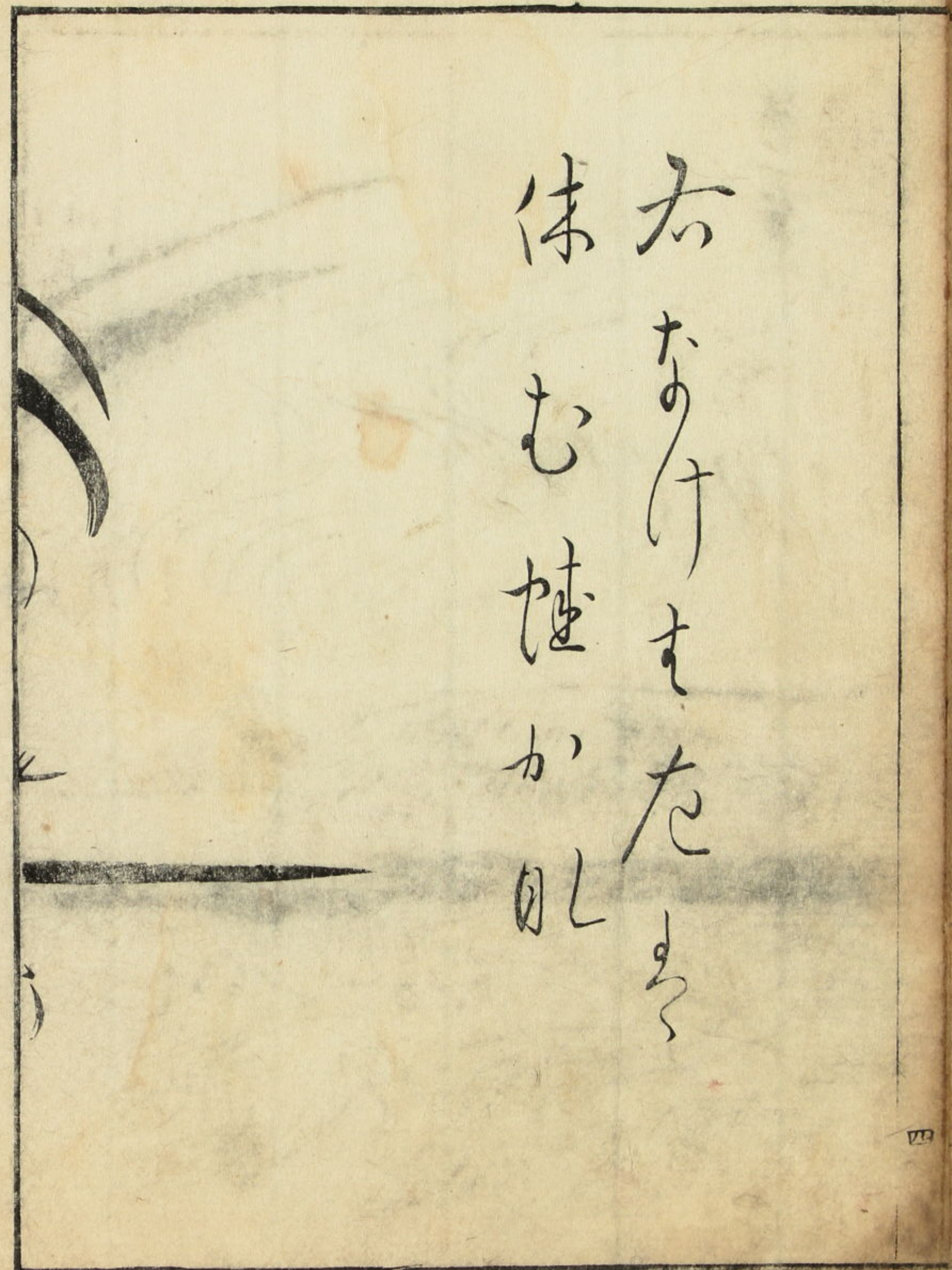




新水筆

大坂小坂  
先赤之梅  
急世居









牡丹画



夕尔八月吐出寸牡丹哉



新  
画



田子形

光の道

如

杜若





第一

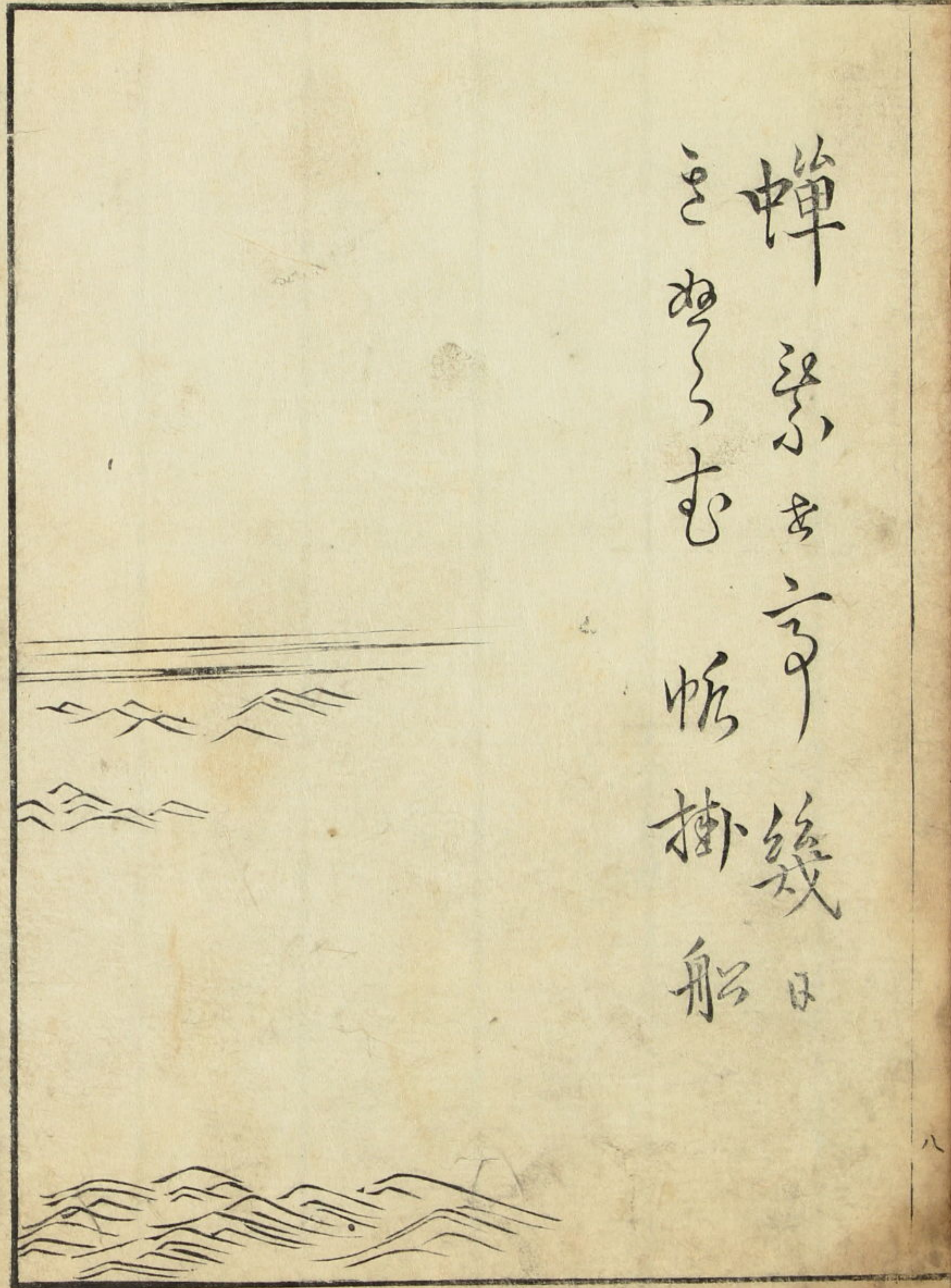


通  
國  
之  
名  
士  
也



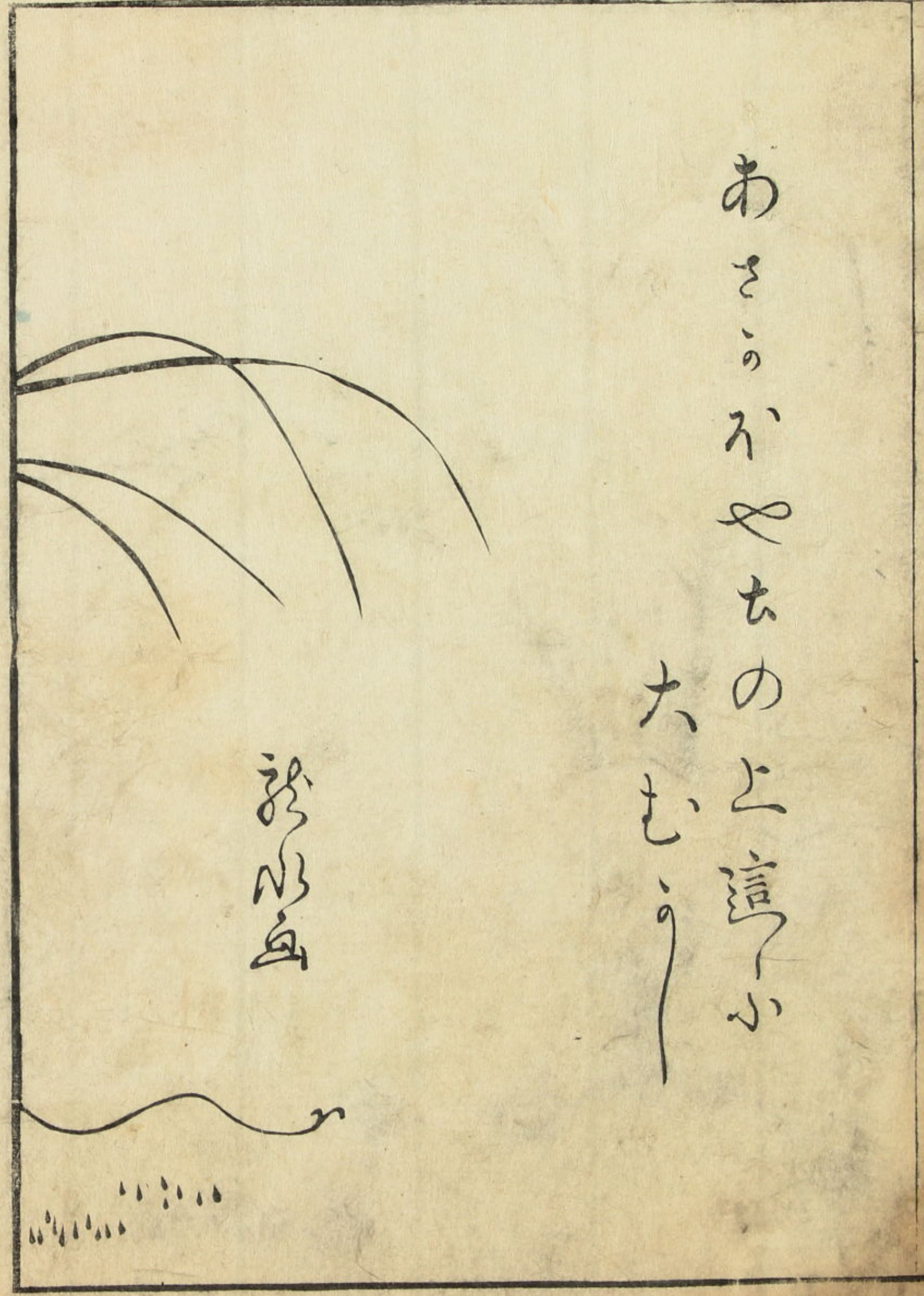


第一峰



蟬  
 紫  
 亭  
 帳  
 掛  
 船  
 日





あさるがやまの上の  
大むら

あさるがやま





第一草



草の  
又  
は  
二  
三

十



松  
水  
聿



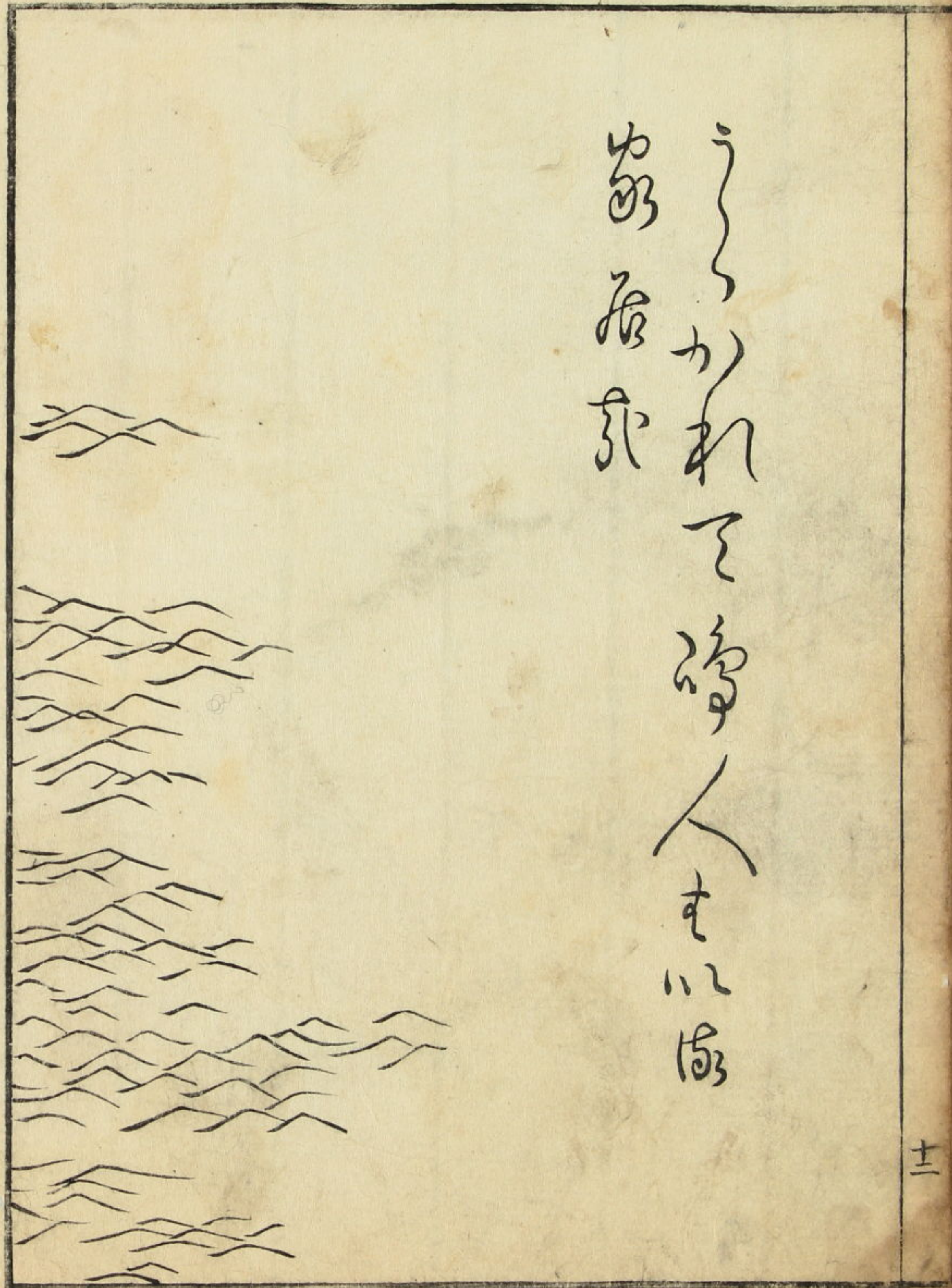
松  
明  
子

古  
ほ  
累、

鹿  
の  
泣  
々

す  
お





うゝかたて海人すい海  
 家海家





龍山亭

海安寺

紅藥志云山魯連磨  
多奇利平公里





新水橋



寒空也  
不二の峰  
り  
日ハ高



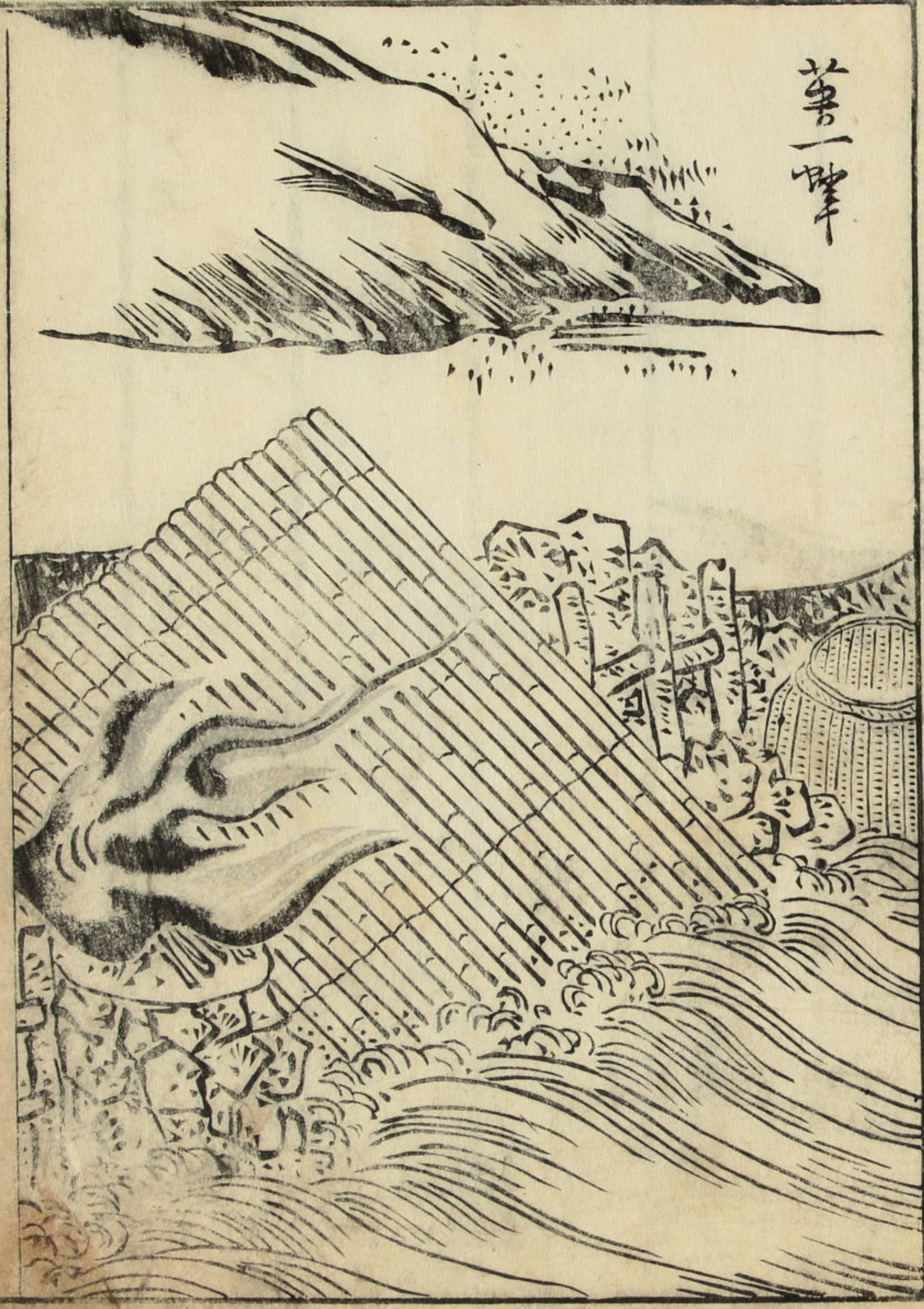
新水  
①



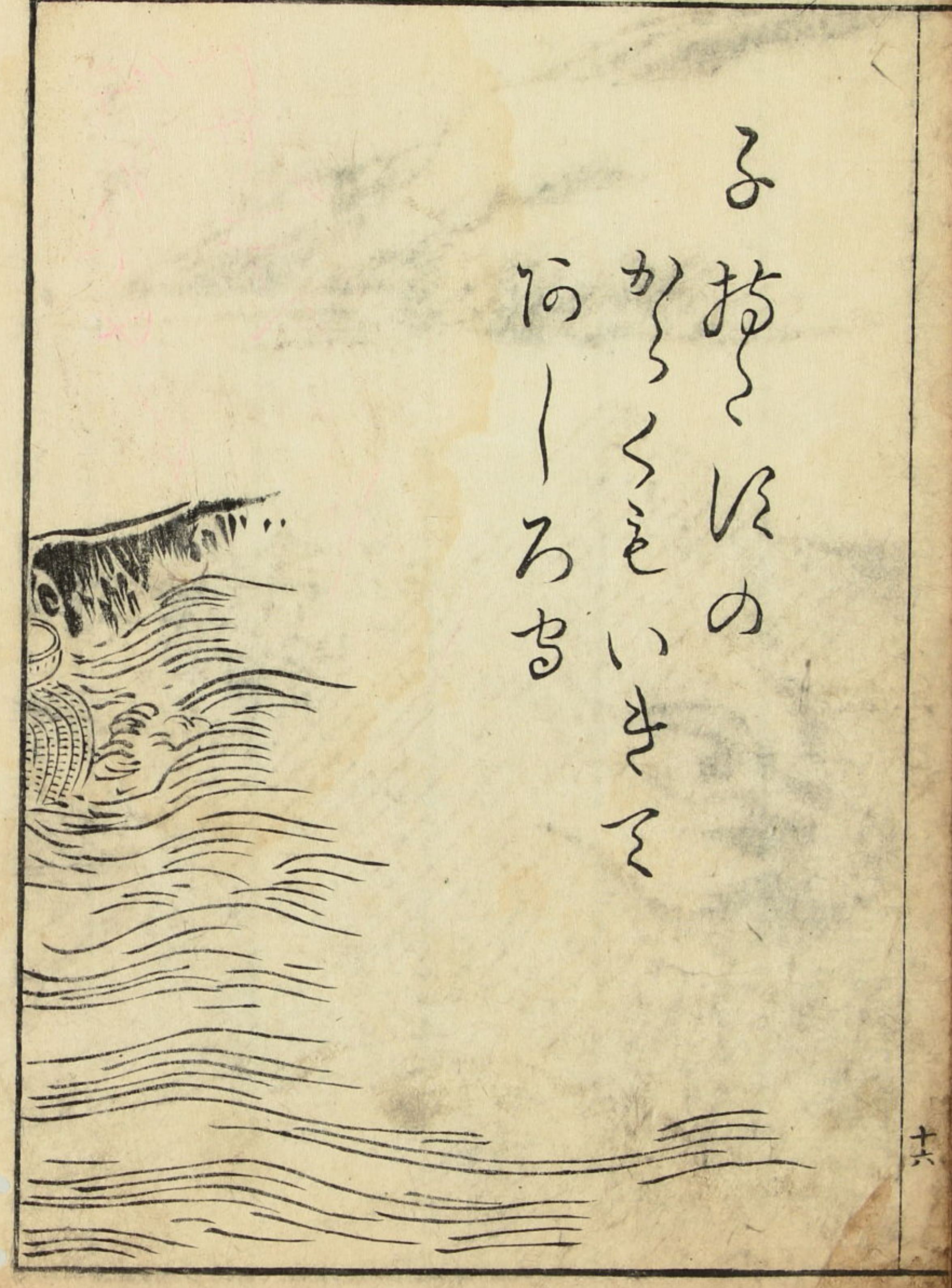
○

新水  
鴨  
若  
星  
不  
里  
水  
田  
哉





第一



子持の  
かゝる  
阿しる



第一卷



何と云ふ  
心  
と云ふ  
世を  
松友



跋  
其像や言詞也如母  
西圖の妙手をか望み  
如くむ軽乃便る如く  
報ぬの志をあらはぬ  
年月記—遺物發句藤一冊



あり此門の記念なりき多し玉蛾子の  
色もふあさあお思ふくも紫のち  
時哉得今亦秋浅梓よりるを思  
むと可又予の希姆申所一以  
念海乃々

獨菴買明





